

平成15年12月1日

宮崎大学 工学部化学会会報

No.17

発行
宮崎大学工学部
化学会

〒889-2192 宮崎市学園
木花台西1丁目1番地
TEL(0985)58-7306(河野)
FAX(0985)58-7306



教育文化学部



リニューアルされました

CONTENTS

- 本部から…………… 2
- 支部だより…………… 4
- 本部役員から…………… 7
- 特集・新生宮崎大学…………… 8
- 物質環境化学科だより……………10
- 年次別所感(37年卒,H2年卒) ……14
- 職場を語る(九州市光工業株式会社) ……15
- みやざきはいま(みやざき近郊の観光スポット) ……16



ごあいさつ

会長 村上 悟
(30年卒)

季節は巡り、秋冷の候となりました。

同窓会会員の皆様には、お元氣でご活躍のことと存じます。

本年も恒例の第17号化学会会報を発行することができましたことは誠に喜ばしい限りです。

私が会長就任以来、早2年が経過し、去る6月14日宮崎市の東天閣で15年度の化学会理事会が開催されました。役員改選の時期ですが、理事長の河野恵宣教授の報告にありますように理事長の交代予定などを決定し議事を終了しました。理事の方々今後ともよろしくお願い致します。

また、母校宮崎大学と宮崎医科大学との統合につきましては、本年10月1日付けで(新生)宮崎大学として設立いたしました。

これを機に、今後とも私共同窓生一同さらに連携を強化して参る所存ですので、ご協力ご支援の程よろしくお願い致します。

さて、最近の経済情勢は低迷をつづける中、景気後退傾向を何とか打開していこうと世情では、構造改革一色ですが、この改革は避けて通れな

い課題でしょう。

さらには、先日11月9日の衆院選の結果、本格的な二大政党の時代に入った感がいたします。

ところで、去る6月9日から11日迄の3日間、化学会28会(昭和28年工業化学科入学の同窓会)からお招きをいただき、大分県下毛郡山国町へ2泊3日の「ホテル探訪の旅」に同行させていただきました(13名、内3名女性)。

この28会の皆様方は毎年この同窓会を企画しておられますが、本当に楽しいホテル探訪の旅を過ごさせていただき、心の洗濯になりました。28会の皆様方、本当に有り難うございました。

さて、私共の化学会は支部活動が中心ですが、どうか若い会員をどんどん同化して積極的な活動をなされますよう期待します。私も、これからは、できるだけ支部活動に参加するように努力しますので情報を頂ければ幸甚に存じます。

会員各位の榮ある未来に向う、さらなる飛躍、発展を期待いたしますと共に、ご家族ともどもの御健勝をお祈り申し上げあいさつといたします。

本部から

理事会報告

理事長 河野 恵 宣
(38年卒)

皆さんお元氣でご活躍のこととお慶び申し上げます。技術革新の変革が早く企業競争は益々激しくなり、一日、一日が激戦の中で生活されていることと拝察いたします。先日のNHKテレビ放送(クローズアップ現代)で、特許や新製品の模倣品対策に最新の情報と日夜の努力をされているある企業の法務部長(宮崎大学工業化学科卒業生)の仕事ぶりを拝見し、意を強くす

ると同時に、卒業生の皆さん方の日頃の努力と頑張りを垣間見ることができました。宮崎大学でも宮崎医科大学との統合(平成15年10月)によって、新しい宮崎大学が発足しました。従来とは違って、医学部と教育文化、工学及び農学部が統合され、住吉新学長の下で学内改組、学科改組等の組織替えに取り組んだ一年でありました。また、平成16年4月には宮崎大学法人化

が行われることが予定されています。大学は法人化され単独の事業体として進むことになります。このため、従来の運営体制も全く変わった形をとることになり、その対策に日夜取り組んでいる状態です。さて、化学会理事会は6月14日（土）午後4時より宮崎市の東天閣で開催されました。村上会長、原田副会長をはじめ約25の名の常任理事と関西支部より安井啓剛支部長の参加があり、（1）平成14年度事業報告（2）平成15年度事業計画報告（会誌発行）（3）平成14年度会計報告（4）平成16年度の役員交代予告（河野忠宣理事長から塩盛弘一郎理事長へ交代）が承認されました。また、これらの報告の他に以下のような（1）会費の納入法がこの方法でよいか（毎年1,000円会費徴収方法）（2）化学会本部と支部との関わりについて（3）役員若返り等の意見が出ました。結論には至りませんでした。従来からの化学会の流れを考えて、今後の方向付けをどのように持っていくか重要であると感じました。法人化によって学内がどのように変遷していくかについては

不明な点が多い状態です。しかしながら、化学会の存続は私たち会員全体が決めることであり、会員一人一人の気持ちに宮崎大学化学会存続がかかっていると思われまます。化学会で会報を発行し始めて今年で第17号を発行することになりました。発足当時から日高会長、舟木、天野副会長の下に理事会が形成され、理事会も若手の理事を加えて化学会報の発行を続けて参りました。平成13年に日高会長、天野、舟木副会長が退任され、村上会長、原田、佐藤副会長へバトンタッチされ現在に至っています。化学会本部では、本年度も若手の元気の良い理事を加えて宮崎大学化学会の絆をより強く保っていきたいと思っています。それには化学会構成員の一人一人のご協力が是非とも必要であると思っています。会費納入率は30%以下であります。出費多難の折りとはい存じますが、会費納入率を60%まで上げるため皆様方のご協力をお願いいたします。

宮崎大学工学部化学会(本部)
平成14年度会計報告

平成14年4月1日～15年3月31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年繰越	89,532	No.16会報	431,608
預金利息	2	会議費	17,152
本部会費	475,360	事務費	9,450
		翌年繰越	106,682
合 計	564,894	合 計	564,894

上記の通り報告致します。

平成15年6月12日

本部会計 大 戸 正 之 （代理 宮武宗利）

金銭出納帳、預金通帳、領収証等について会計監査を実施した結果、適切な処理が行われており異議のないことを認め監査報告致します。

平成15年6月12日

本部監査 江 藤 信 幸
岩 切 重 人

支部だより



東京支部だより

支部長
清水 満
(55年卒)

今年はいラク戦争、SARS問題等で世界経済に大きな影響が発生しました。日本では冷夏による季節商品の販売不振、作物への被害による価格高騰等経済的打撃は大きく、景気はやや回復基調に向かっているとは言われているものの、なかなかその実感がかめぬ状況であります。一刻も早く景気が回復することを願っております。

東京化学会では5月17日に総会を開催致しました。遠方より志摩先生、今田先生に御出席いただき、27名の参加者となりました。今田先生は当日宮崎へお帰りにならなければならないご多忙の中で御出席頂きまして、大変申し訳なく思っております。

昨年の総会(参加者42名)と比べますと参加者が少なくやや寂しい気は致しましたが、先生方を囲んで和やかな一時を過ごすことが出来ました。2次会では若干メンバーを中心に志摩先生を囲んで、先生との懇談や学生時代の思い出を語る等、盛り上がった一日となりました。今回は現役の先生方にもご参加頂き、総会を更に盛り上げて行きたいと思っております。

さて、東京化学会では昨年の会報でもお知らせ致しましたように、念願であったホームページ(HP)を開設致しました。昨年HP委員を任命させて頂きましたが、更に平成4年卒の太田殿、桑村殿にもHP委員に加わって頂き、今年の2月、3月の2回HP委員会を開催して検討して参りました。HP作成に当たっては経験豊富な太田さんを中心に委員会メンバーの活

発な意見を採り入れ、今年4月に開設することが出来ました。まだまだコンテンツが不足しており、充分とは言えませんが、今後会員の皆様の御意見も採り入れながら充実したHPにしたいと思っておりますので、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。

HPは下記URLでご覧頂けます。

東京化学会HP

<http://www.chem.miyazaki-u.ac.jp/~tokyokagaku/>

本部HPともリンクされていますので、本部HPも併せてご覧下さい。

東京化学会のH15年度年度の活動としましては、3年振りに会員名簿の発行を行う予定にしております。名簿作成のための調査ハガキを送付させて頂きましますので、ご協力をお願い致します。転居先不明者につきましては東京化学会HPに名簿を掲載していますので、ご本人或いはご存じの方は

tokyokagakukai@infoseek.jp宛連絡をお願い致します。

また、住所変更の方、平成10年以降の卒業生で関東地区に在住の方につきましても連絡をお願い致します。

なお、総会では下記議題が承認されましたので、併せてご連絡致します。

1. 理事退任 昭和55年卒 進藤 正成殿
2. HP委員任命 平成4年卒 桑村 五郎殿
平成4年卒 太田 好俊殿



関西支部だより

支部長 **安井 啓 剛**
(37年卒)

長い冷夏の後、一段と暑い残暑も終わり、今は好天気続きの心地よい秋を迎えております。世間では米の

不作と言われるものの、当地関西地方の田んぼでは見渡す限り豊かな稲穂が頭をたれ、赤い蔓珠沙華の咲き残りの中、アチコチで稲刈りの音が聞こえてきます。

昨年の報告以来早1年、今年も1年間の活動状況を報告する時期となりました。昨年の支部便りの中で、12月に総会を開催することを書きましたが、幸いにも計画通り、開催することが出来ましたので、その結果

を簡単に要点のみ報告、披露いたします。

平成14年12月1日、大阪市のご真ん中、道頓堀に面した、道頓堀ホテルで昼食会と併せて総会を開きました。出席者総数32名、来賓の先生は年末でもあり都合つかず支部会員だけの総会となりました。それでも出席者は久しぶりの再会を果たし、公私の話題から、最近大学に求められている独立行政法人化の行方等について熱心な議論も沸き起こり、その関心の深さには並々ならぬものがありました。和気満々のうちにも真剣な話し合いでした。式次第等は省略し、論点、問題点、決定事項についてのみ抜粋しましょう。

1. 支部長挨拶の中で、現状の同窓会活動に関する次の①～⑥の疑問点と問題提起があり、その解決に会員一同の討議と協力要請が行われた。出席者からは多くの意見と対応策が出され、既に実施済みの項目もある。

- ①関西支部のエリアが広すぎて手が回らない
- ②本部、他支部との交流、連携
- ③支部活動とは何か、何がふさわしいか
- ④(支部)会則の変更、改訂
- ⑤会員名簿の充実(携帯Tel No、メールアドレス、Fax Noの確認など)
- ⑥支部名称の変更可否

2. ちなみに、上記6項目については、今年6月の本部理事会で①②⑥項目に本部としての何らかの支援、意思表示を要請したが、満足すべき回答は得られず残念であった。

3. 支部としては、現在出来る事項から順次処置中である。特に③項の活動、会員同士の交流行事としては、種々の案が浮上し、検討中である。2～3の例を挙げると



イ. 交流行事…ゴルフ大会、閉基大会、将棋大会、旅行などの開催、実施。

ロ. 相互援助…会員に税理士、特許事務所勤務者、自営業者等があり、夫々の専門性を生かした相互援助、支援活動が出来ないかの検討。

ハ. 子息女の紹介…就職や結婚に関する紹介。良縁となれば幸いであるが、これは今のところ個人的付き合いの範疇内。

いずれにせよ これから十分に検討すべき課題と言える。

4. ①、④、⑤項目は支部として改善実施中。

5. ⑥項は従来通りの名称“化学会関西支部”とする。

現在 今年も総会を開くべく、幹事が度々打ち合せの会合を持ち、着々と準備中です。特に 宮崎医科大学との合併、独立法人への移行問題、自己評価システムの問題、等々我々出身大学の容容と存続がはたしてどうなるのか 重大な関心を持たざるを得ないのでこの点について大学より河野先生、塩盛先生において頂き、十分な説明を拜聴することにして頂きます。また同時に、退官以来久しい竹井先生のご来駕を仰ぎ、ご挨拶をいただく予定です。

名古屋支部だより

支部長 清水 一生
(34年卒)

多少のずれはあるものの、春夏秋冬は確実にやって来る様に、今年も支部だよりを書く時期がおとずれ、無い知恵をしぼっている所です。

幸いにも今年は竹井先生にご出席いただき、5月17日に知立(チリユ：東海道の宿場のひとつだった)

で、15人の参加を得て支部総会を開催しました。

竹井先生の大きな声での挨拶には驚きました。最近まで教鞭を取っていたかとかで、とても80才を越えた人の声とは…。昭和30年頃の就職難の中での就職活動のエピソード、更に学校内での出来事をよく記憶されていて、そんな事もあったのかと驚きながら聞き入りました。出席された会員も久しぶりの再会に話はずみ「出席してよかったなあ～」との思いで帰路についた様子がうかがわれ、主催者としてもほっとしました。2日目の5月18日は先生の夕方のフライトに

支部だより

合わせ、名古屋空港に向かいながら「からころも きつつなれにし つましあ
らば はるばるきねる たびを…」で
名の知れた、ちらほらかきつばたの咲
きはじめた知立の無量寿寺、織田信長
に関係の深い名古屋空港近くの清洲城
などの観光を楽しんでいただきました。
交通の便などの実から、計画を積極的
に開示せず一部有志の参加で終わった
点につき、支部長の独断で行った事を
出席者の方々におわび致します。

今回の出席者の中に若い人が居なかつたのは残念です。しかしこれは、昭和50年頃を境に、それ以降の卒業生の動

向が把握出来ていないからです。そこでお願いがあります。もし支部活動にぜひ参加したいという方は、支部長：清水一生（〒473-0916）豊田市吉原町丸山84-5：へ、住所、氏名、Tel No.をお知らせください。

今年も28会に出席出来楽しい3日間を過ごす事が出来ました。6月9日～6月11日大分県山国町（人口約4500人）：日田杉で有名な日田の近く：を中心とした旅行で心配した雨の問題もありませんでした。久しぶりに見たホテルの大群、山国町の人々の暖かい心に



接したことと木造の小学校の体育館を見ることが出来、感動しました。今回は四人の方が奥さんを同伴された事と30年卒の先輩の参加があり今迄と違った雰囲気でした。次回は来年に、宮崎の高千穂周辺が予定されています。幹事になる方に提案があります。すでに考慮されている事とは思いますが宮崎支部のご協力を得て、宮崎方面の方々にご参加いただくとより楽しい会になるのでは…。卒業後一度もお目にかかっていない人達に会えればと楽しみにしています。



福岡支部だより

支部長

宮原 陸人
(36年卒)

今年の福岡地方の夏は、長雨と低温が続いたため海水浴場等や冷房設備類の売上不振、はたまた、福岡市東区一家殺害事件等々暗いニュースが続きましたが、9月に入って猛暑が続いたお陰で、心配されていた米の作柄が持直すとともに、月末にはパ・リーグのダイエーホークスが優勝する等ようやく明るさを取戻したところです。

さて、福岡支部としましては、平成13年10月に同窓会を開催して以来、何ら報告できるような活動をしていないまま今日に至っています。但し、今まで当支部の同窓会は、数年間に一回の頻度で開催されておりますので、近い内に幹事の皆様が集まって頂き、行事日程等を相談計画しようと思っております。従来から、幹事会や同窓会は、「もうそろそろの時期」とか、何らかのキッカケが生じてから開催している感があり

ますが、今後は、でき得る限り定期的で開催するようにスケジュール化することにより、支部活動が若干でも活発化するのではないかと考えている次第です。

ところで余談になりますが、私は、7月31日に胃癌の手術を受けて8月18日に退院したばかりですが、7月25日の癌告示から退院までの間、支部長を辞退する場合もあると覚悟していたのですが、現在体力も若干回復しましたので、若少しお役に立ってからと考えている次第です。

なお、人間60才を過ぎると、成人病と如何にうまく付合っていくかが大事となります。ご参考までに私の胃癌発見の切っ掛けは、起床時に胃もたれの感があったため胃薬を飲んだりしていましたが、約1ヶ月後にも数日間胃もたれが続いていたので、早速病院に行き内視鏡検査を受けたことにより早期発見をすることができました。また、前立腺癌も血液検査によって癌が発生している恐れがあるか否かを数値で知ることが出来ますので、今後は毎年欠かさず検査を続けて行こうと思っています。

以上、内容が横道に逸れてしまいましたが、皆様のご健康も願っての脱線ですのでお許し頂きたく存じます。

宮崎での個人的近況



常任理事
三重野 彰 敏
(47年卒)

大学卒業後32年目を迎え、同級生の顔がみたいと思うこの頃です。竹井先生の所には時々、お邪魔させていただいていますが、先生ご夫婦お元気で、先生は毎日、ウォーキングをされています。今年は息子さんの勤務地のタイにいかれたと聞きました。

私は宮崎へヒターンして23年、専門外の不動産、建築に従事していますが、生活に必要な衣食住の内、最も高い住を担当している事に責任とやりがいを感じています。又、宮崎の住環境は日本一だと思っています。このまま自然を守り残してゆきたいと思っています。昨年末、腹膜炎で手術入院2ヶ月でした。年をとると体には気をつけなれないと思えました。子供は1人で今大阪で司法修習生です。

今年春、同級の福元悦人君夫婦が鹿児島から遊びに来ました。彼は司法書士、土地家屋調査士をやっている、忙しそうでした。私と宮崎ガスの方江一夫君、沖電気の満永利夫君とシーガイアフェニックスGCでゴルフをし、32年間のブランクを感じさせない程のわきあいあいの楽しい時間を過ごしました。

新聞屋の増我部史郎君は仕事で来れないのが残念でした。宮日新聞の理事もやっています。

8月には八幡高校出身の宮大OB会をしました。北九州から井上博夫婦が来られ、大太鼓で盛り上がりました。農学科の大城光高先輩は今鹿児島県茶業試験場の場長で相変わらずのひょうひょうたる風ぼうがおもしろく、幹事を藤井正安君(農学科-宮崎県庁)がやってくれました。余談ですが今参議院の外添要一議員は同級生でした。頑張ってください。

10月に満永利夫君の長女さんが結婚され、出席させていただきました。良い結婚式でもらい泣きました。最近、孫が欲しいと思う様になって来ています。春山洋一君は、今、日向工業高校の教師ですがお医者さんになった息子さんが結婚されたそうです。

こんな風書いていくと、剣道部の後輩の大石洋行君や、同じ下宿で松下電器に行った出辺功二君皆元気にしているかなと思えます。

団塊世代の我々ですが今迄も日本の経済を支えて来た自負はあるのですが、少子化で労働力不足で不景気の日本では、中々ゆっくりさせてもらえないのではないかと感じます。

それでも仕事が終わったら、住み易い自然の残っている、青春の思い出の宮崎へ帰って来て欲しい。帰れないなら、せめて旅行で、同窓会で来て欲しいと思

ます。
最後に皆様のご健康を祈念致します。

光陰矢のごとし

常任理事
後藤 健 児
(平成元年卒)

高橋尚子選手の金メダルから3年、早いもので来年はオリンピックの年。水泳の北島選手やハンマー投げの室伏選手、200Mの末續選手など日本選手の活躍には目を見張るものがあり、もし今年オリンピックがあったら…とってしまう。

本県出身では、柔道の井上選手やサッカーの中山選手。井上選手は今や世界最強であり、一本勝ちする強さは柔道の象徴的存在である。一方中山選手はエースストライカーとして期待されている。きっと両選手はすばらしい活躍をしてくれるだろう。

大学在学中はソウルオリンピックがあって、鈴木大地選手の金メダルやベン・ジョンソン選手のドーピングによる金メダル剥奪などが思い出される。バレーボール部に所属していたことから、バレーを期待していたが男女とも芳しくない成績だったと記憶している。

大学が船塚の頃の練習は、グラウンドに隣接していた倉庫みたいな古い体育館(戦時中の飛行機の格納庫だったと聞いた覚えがある)で汗を流していた。ボールが弾まず、滑らず、練習着が真っ黒になる床と暗かった照明。試合に行くと体育館のワックスの効いた床と明るさに戸惑っていた。今は取り壊され、駐車場と成っているが、たまに通るとその姿が思い出される。

船塚のキャンパスが移転したのは大学3年のときで、16年前のことになる。その後、プレハブ校舎が姿を消し、学部編成で学部名から化学が消えたこともあった。そして今年の10月、宮崎医科大学と統合して「新・宮崎大学」が誕生。大学は急激な変化を遂げ続けている。

その中であって、現在の化学会は諸先輩方の化学会を愛する気持ちとご苦勞により、各部会、会報の発行など様々な活動が行われています。

今後も化学会が卒業生の親睦の拠点となって発展し続けるよう皆様のご協力をお願いします。

最後に化学会の皆様のご健康とご活躍を祈りまして終わりとします。



特集

新生・宮崎大学発足!

平成15年10月1日宮崎大学と宮崎医科大学は統合し、
新しい「宮崎大学」としてスタートしました。



UNIVERSITY OF MIYAZAKI

(統合より新しく定められた校章および大学のロゴ)

宮崎大学と宮崎医科大学の統合による 新生宮崎大学の誕生

宮崎大学教授

河野 恵 宣

(昭和38年卒)

平成15年10月1日に宮崎大学と宮崎医科大学は統合して新生の“宮崎大学”として創設されました。これまで両大学は、それぞれの理念に基づいて特色ある研究教育および診療を行い、地域社会はもとよりひろく我が国の学術の発展、健康増進に貢献してきましたが、近時の社会情勢の変化を背景に大学には一層の充実と国際競争力の強化が求められてきました(住吉昭信新宮崎大学学長言)。このような社会情勢に対応するため、両大学統合に関して平成12年4月に“宮崎大学と宮崎医科大学において統合問題を検討することに関する合意”がなされました。その後平成12年1月の“宮崎地区国立大学統合問題協議会”設置等の幾多の委員会、分科会において両学統合に関しての教育面、研究面、運営面等の多くの討議が繰り返されてきました。その結果として、平成15年4月国立学校設置法の一部改正する法案“宮崎大学と宮崎医科大学を統合して宮崎大学を設置、平成15年10月統合、平成16年4月学生受け入れ”が成立し、新生の宮崎大学の創設が決まりました。平成15年7月に住吉昭信氏(旧宮崎医科大学副学長)が学長

候補に選任され、同10月1日付けで宮崎大学長に就任されました。また、10月1日に開催された宮崎大学開学記念式典には教育文化学部、医学部(旧宮崎医科大学)、工学部および農学部の同窓会役員先輩方の出席も頂き盛大に開催されました。

新大学のスローガンである“世界を視野に地域から始めよう”を掲げ、(1)教養教育に充実と質的向上(2)教育研究基盤の強化(3)学際領域の教育研究の活性化と創出(4)地域社会と国際社会への貢献を具体的な目的・目標に掲げ、新しい知の創造に向けて多角的かつ柔軟な教育研究活動の展開を目指すことであります。この根底となる基礎理念は、人類の英知の結晶としての学術・文化の継承と発展、奥深なる学理の研究、生命を育ててきた地球環境保全、さらに人類福祉と反映に資する学際的な生命科学の創造を志向し、変動する多様な社会の要請に応えうる人材の育成をはかることにあります(大学紹介より)。

教育文化学部は明治17年宮崎県尋常師範学校として発足以来、宮崎県師範学校、宮崎師範学

[宮崎大学の近況]

新宮崎大学の誕生と法人化への助走

学科長 保田 昌秀

(機能物質化学講座 教授)

平成15年9月30日に53年の歴史を刻んだ宮崎大学が廃止され、10月1日から宮崎医科大学と統合した新“宮崎大学(University of Miyazaki)”が誕生しました。従来の三学部(医学部を加えた「教、医、工、農」の四学部の総合大学になりました。工学部および物質環境化学科の組織には変更がありませんが、予算の配分方式・人事方式・評価方法などが変更され、さらに、2004年の4月には法人化され、「国立大学法人宮崎大学」に組織換えされる予定です。まさに、大学も激動の波の中に突入しました。

その中であって、物質環境化学科では2003年3月に70人の学士および19人の修士が巣立ちました。学部卒業生の内32名が企業等に就職し、29名が大学院(他大学を含む)へ進学、9名が専門学校への進学者・自営業・未決定者でした。大学院修了生では16名が企業等へ就職し、1名が博士後期課程へ進学、2名が未定でした。

教職員の動向としては、1月1日付けで松本仁助手(機能性物質化学講座有機化学分野)が北海道大学のプロジェクトから着任しました。4月1日に町田正人助教授(機能性物質化学講座無機化学分野)が熊本大学工学部へ教授として転出され、かわって10月1日付けで酒井剛助教授が九州大学から転入されました。6月1日に技官で構成される工学部教育研究支援技術センターが発足し、斉藤泰男技官および貝掛勝也

技官が同センターの所属となりました。事務補佐員は金井博美さんから4月1日付けで佃喜代美さんに交替されました。

学科の主だった動きとしては、木島剛教授(機能性物質化学講座)が科学技術振興事業団の大型プロジェクト「戦略的創造研究推進事業(CREST)」に採択されました。経済産業局の「地域新生コンソーシアム」事業へ馬場由成教授(資源環境化学講座)が分担者として参加されています。また、法人化に向けて大学も労働安全衛生法の対象施設となることから研究環境の整備が計画されています。また、多くの全国工学系大学が取り組みを開始している「日本技術者教育認定制度(JABEE)」の認定を本学科も平成16年度に受審するための準備として、本年日本化学会から審査員を派遣してもらい予備審査を受審します。

大学は「開かれた大学」をキャッチフレーズに地域との連携を強めようとしています。学内に閉じた研究スタイルから他大学・企業等と連携した研究スタイルへの変革が求められています。そのためには、社会のニーズにあった研究課題の選定、研究成果の公開、研究組織体制の充実など課題が山積しています。今後とも同窓生の皆様のご期待に応えられるように教職員一丸となつて、激動の時期を乗り切りたいと思っておりますので、同窓生の皆様のご教授およびご支持をよろしくお願い申し上げます。

物質環境化学科職員 (平成15年11月現在)

	講 座	教 授	助 教 授	助 手	技官・事務職員
物質環境化学科	機能物質化学	河野 恵 宣	塩 盛 弘一郎	松 本 仁	齋 藤 泰 男 貝 掛 勝 也 佃 喜代美
		木 島 剛	酒 井 剛		
	保 田 昌 秀	白 上 努			
資源環境化学	松 井 隆 尚	松 下 洋 一	菅 本 和 寛		
	馬 場 由 成	中 村 成 夫	大 栄 薫		
生物物質化学	林 横 井 幸 男	湯 井 敏 文	宮 武 宗 利		
			廣 瀬 遵		

機能物質化学講座

(旧工業物理化学研究室)

教授 河野 恵宣(昭和38年卒)

助教授 塩盛弘一郎(昭和63年卒)

河野恵宣(昭和38年卒)が昭和59年から基礎化学講座(工学部共通講座)へ所属替えて移動した後、平成2年に再び工業物理化学講座へ戻って今日まで工業物理化学講座に所属して講座を預かり、工業物理化学関連および反応工学関連の教育と研究を行っている。昭和60年California, Berkeley校へ外地留学帰国後、鹿児島大学工学部化学工学科の幡手泰雄教授と“マイクロカプセル調製とその機能性制御”と“脂質の酸化劣化機構およびその抗酸化機構に関する研究”という課題で共同研究を開始した。平成3年、塩盛(昭和63年卒、平成2年修士修了)が工業物理化学研究室に助手として採用され、研究は各段と活発になってきた。その間、馬場由成氏と湯井敏文氏が助教授として数年間ずつ当研究室に加わり、現在それぞれ資源環境化学および生物物質化学講座へ移動した。平成5年から、宮崎県特産焼酎の新規品種製造に関する研究について宮崎県食品開発センター(柏田雅徳氏)と共同研究を行い、新規焼酎もろみ発酵と新蒸留操作の開発を続けている。また、塩盛は平成5年大阪大学基礎工学部(駒沢勲教授・久保井亮助教授(当時))へ国内留学して、“逆ミセルを利用した生理活性物質の分離”に関する研究を開始し、この研究で大阪大学博士(工学)を授与された。河野が工業物理化学講座へ移動して以来14年、柏田雅徳氏(焼酎蒸留)、孫偉氏(脂質酸化・抗酸化機構)の2名の博士課程修了と博士(工学)の学位授与、更に物理化学講座の修士課程を修了して都城高専に奉職している清山史朗氏が論文博士(工学・マイクロカプセル調製と機能性制御)を授与された。平成13年10月、塩盛は助教授に昇任し、物理化学と反応操作設計に関する教育を担っている。塩盛は、平成14年11月からスウェーデンの Lund 大学へ外地研究した。Lund 大学は、草野一仁先生が外地研究で

熱測定を研究された大学であり草野先生好みの大学であることを興味深く思い出す。塩盛は、Lund 大学で“水溶性ポリマーを用いたアフィニティ沈殿分離法の開発に関する研究”を行い、本年9月に帰任した。研究室に新しい血を持ち込み、今後の教育研究発展の基礎となることが期待される。これらに挙げた研究は、科学研究費補助(平成2年から平成15年合計10件(2~3年継続研究))の他、平成9年度みやざき新技術共同推進事業、平成13年度宮崎新産業創出共同研究推進事業、平成14年度から現在までの酒造組合中央会事業、平成14年度即効型地域コンソーシアム研究プロジェクト、平成14年度から現在進行中の化学技術戦略推進機構の研究プロジェクト等に採用され、研究の奥深へ向けた基礎的研究と共に実用化に向けた研究の発展も進んでいる。

現在、工業物理化学研究室では、前記の5つの研究(溶媒抽出、マイクロカプセル調製、脂質酸化・抗酸化機構、新規焼酎製造、逆相ミセル系抽出)に加えてアフィニティ沈殿分離に関する研究の6本がその柱となっている。平成15年度は、修士学生8名、学部学生14名、共同研究企業4社(研究員派遣2名+1名(非常勤))に加えてスタッフ2名(河野恵宣・塩盛弘一郎)で更なる発展へ向けて研究を続けていきたいという強い意志を持って活動している。



見えない糸

博士前期課程2年
砂田 啓 公

工学部化学会会報の原稿依頼を受け、どのようなことを書けばいいのかわからず筆をとっております。化学会会報を読ませて頂き改めて在校生と卒業生のつながりについて認識致しました。私にそのようなつながりについて肌で感じるような出来事がありましたので、そのことについて少し書かせて頂こうと思います。

それは、私が広島のパイラーメーカーを受けた時のことです。私は、以前から環境化学に関心を示しておりましたので、環境保全に積極的に取り組まれている会社に応募しました。一週間後、その会社の宮崎大学出身の先輩からメールが届きました。それは、「本日本弊社人事課より、砂田啓公様の2004年度採用応募があった事の連絡を受けました。久しく宮崎大学からの応募が無かった為、OB一同大変喜んでおります。できればお会いしたい」という内容でした。次の日、宮崎に来られた際、「宮大OBが全面的にバックアップしよう!」という心強いお言葉を頂きました。また、会社説明会後には、OBの方々が親睦会を開いて下さり、試験当日までにキーポイントとなる所や修正していかなければいけない点を指摘いただきました。さらに面接終了後にもOBの方々が全員で会食の場を設けて下さいました。今まで私は、研究室や学科内で積極的に縦のつながりを作るようにしてきました。そして私は、上下関係は面識がある人だけでそれがつながりであると思っていたのですが、全く面識のない先輩が今までずっと可愛がって来た後輩のように私と接して下さいたことに驚きとともに感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、そこで改めて宮崎大学のつながりはとても強いものだと感じました。残念ながら、私はこの会社に入社することはできなかったのですが、「広島に足を運んだ時や就職が決定した時はいつでも声を掛けるように」というあたたかいお言葉を頂きました。

私自身、今後どこで宮大OBの方、後輩に出会うかはわかりませんが、一つ心にあることは、会社に入った際には『トップランナーを目指しトップランナーで走っていきたい』と考えています。それは、就職活動で出会った宮大OBの方々が今もなおトップランナーで走っておられたからです。そして、私がトップランナーを目指し走り続け、トップランナーになれるようなことがあれば、また宮大OBの方と出会う時や場



筆者 最後列中央

所があると期待できるからです。私は、まだ出会っていない先輩や後輩とのつながりを作り、良い関係を築き上げたいと考えています。宮崎大学工学部化学会のつながりをもっともっと大きく、強くすることで、宮崎大学工学部化学会がますます繁栄することを願っております。

大学での4年間で

物質環境化学科4年
野 口 聖 人

宮崎に来て初めての一人暮らしは、自由で気ままな雰囲気を楽しめる一方で、慣れない料理、洗濯など戸惑うことが多くあったような気がします。

それは学内でも同様で、次にどこへ行き、何をやるのかわからず、周りの一挙手一投足に注意を払い毎日をどうにかこうにか過ごしていたのを、いまでも覚えております。

振り返ると、私はこの四年間で様々なことを自分で責任を持ちやり遂げることができるようになりました。それまでの家族に頼り、周りから与えられたものをこなすことで満足していた私にとって、アルバイトやクラブ活動などを通して、仕事の結果やその内容を評価され、責任を問われる機会を多く得られたことは、本当にいい経験になりました。

そんな大学生活の中で車の免許を習得し、自由にドライブにいけるようになったことは、もっとも大きな変化の一つでした。

太平洋に面した宮崎には青い海が広がり、荒波の押し寄せる岸壁と白い砂浜が点在する海岸線には、そこを縫うように国道が走っていて、晴れた日に、授業そっちのけで一人ドライブに行くこともありました。

たまに悩んだり、落ち込んだりする時もありましたが、そんな時は車から降りて青く広い海を見ていると、なんだか励まされたような気がして、憂鬱な気分をどこかへ吹き飛ばしてくれました。

私にとってこの宮崎の地で学び生活することができたことは、大学という人生のひとつの区切りとなる期間において多くの大切なものを与えてくれました。大学を卒業し、自分の進路選択のとき、化学の観点から自然を見つめ環境をより大切に考える仕事に携わりたいと強く思い、その道へ進むことを決めたのも自然の豊かなこの土地で培われたものだと思っています。この先の人生で、進むべきに道に迷い、越えがたい壁を目の前に立ち止まるそんな時に、この宮崎の青く広がる海を思い出し、またいつの日か、この地を訪れることを楽しみに、社会人としての一歩を歩んで生きたいと思っています。



平成15年3月卒業生就職先および卒論題目

氏名	就職・進学先	論文題目	研究室
荒川 浩(修士)	KOA	複合鋳型法によるリン酸カルシウムナノ粒子の合成	材料2
池田 聡(修士)	エス・イーケムキャト	Pt/TiO ₂ -ZrO ₂ 触媒のNO-H ₂ O ₂ 反応機構に関する研究	材料2
渡邊 範幸(修士)	アース環境	Y-Ba-Cu成分の超微細孔への含浸とナノ構造化の検討	材料2
伊勢 道隆(修士)	APIコーポレーション	オレフィンとエノンのヘテロDiels-Alder反応を用いるノルリゲナン類の合成	分子2
黒木 俊輔(修士)	南九州富士通	イオン交換/交換析出反応による酸化鉄ナノ構造体の合成	材料2
澤田 公一(修士)		分岐状31→4グリカン分子鎖の分子モデリング研究	生物1
年吉 正樹(修士)	日本オフィスシステム	Bacillus属菌による3-methyl-4-nitrophenolの好氣的分解特性	生物2
外山 慶一(修士)	カネリョウ海藻(株)	Bacillus oleronius No.16による3-methyl-4-nitrophenolの嫌氣的分解特性	生物2
鍋島 慶子(修士)	ベストアメニティ	カチオン交換性層状粘土とアンチモンポルフィリン錯体との相互作用	分子1
藤井 英樹(修士)	興人	耐低温性水素発酵菌Clostridium sp.E-73の生産するα-アミラーゼの酵素工学的特性	生物2
藤本 幹治(修士)	岡山大学大学院	SPG膜を利用したポリリン酸/キトサンハイブリッド微粒子の調製と酪酸放出挙動	基礎
藤本 逸(修士)	大和化学工業	スズ基材の炭化反応:炭化物の官能基形成に及ぼす酸素雰囲気および遷移金属塩添加の影響	分子2
古市 佳代(修士)	第一醸業株式会社	Aureobasidium属菌由来グルコシルトランスフェラーゼの酵素特性とデンプ粉を用いた生産	生物1
牧瀬 隆一(修士)	南国興産	シリカゲルに担持したアンチモンポルフィリン錯体を触媒とするアルケン類の可視光酸化反応	分子1
森本 正浩(修士)	活動中	ヒ素汚染防除に関する生物工学的研究	生物1
山崎 功児(修士)	明研化学	軸方向で結合されたポルフィリン発色団の光化学的挙動	分子1
山田 伸充(修士)	ホンダロック	層状アルミナ/ポリ乳酸コンポジットフィルムの作成と力学的特性	材料2
吉田 智(修士)	旭化成ファインケム	アビエタン型ジテルペンの合成およびその抗菌活性評価	分子2
渡辺 明幸(修士)	SONYセミコンダクター	水素を還元剤とする常温NO選択還元反応に関する研究	材料2
魯 保旺(修士)	北陸先端科学技術大学院大学	スズ基材の炭化反応:木酢液成分の生成量に及ぼす酢酸水溶液処理,凍結処理および炭化物添加の影響	分子2
黒木 雄一	吉川セミコンダクター	キトサン-ZnCl ₂ 結晶におけるZnCl ₂ 配向の探索	生物1
押川 大介		Paenibacillus sp. KB-06菌株の最適培地条件の検討	生物2
白石 芳史	大成住宅	TOMACTルエン溶液による亜リン酸の抽出平衡	材料1
西川 和孝	家事手伝い	Paenibacillus sp. KB-06株のジャーファメンター培養での最適培養条件	生物2
藤田 一宏		バイオマス吸着剤による地下水中の硝酸イオン及び亜硝酸イオンの吸着特性	基礎
市河 秀治		振動型抽出装置におけるLIX860ケロセン溶液によるNiの抽出挙動	材料1
仲尾 次倫	ソフテム	高分子及び無機ナノチューブのナノ分離材への応用	材料2
青屋 洋治	ミクニキカイ	新規化学修飾キトサン樹脂の合成と有価金属の回収技術の開発	基礎
安藤 克敏	宮崎大学大学院	硫黄原子で配位した軸配位子を有する新規アンチモンポルフィリン錯体の合成	分子1
飯田 眞司	川澄化学	N型結合糖鎖コアマンノース糖分子の分子動力学計算	生物1
磯 畑 周作	宮崎大学大学院	新規アルミナ系ポーラス材料の合成	材料2
井口 祥佑	宮崎大学大学院	流通式不均一触媒反応によるシクロアルケンの可視光エポキシ化反応	分子1
岩切 良久	宮崎大学大学院	デヒドロアビエチン酸からキノおよびハイドロキノ構造を有するアビエタンジテルペンの合成	分子2
魚山 眞司	西日本プラント工業	複合鋳型法による白金ナノチューブの合成と生成過程の検討	材料2
江上 真紀子		粘上層間内にインターカレートしたアンチモンポルフィリン錯体の光触媒作用	分子1
江藤 寿哲	宮崎大学大学院	雷管製造工程におけるジアゾジニトロフェノール処理水の脱色化に関する研究	分子1
大河原 勝之	鹿児島県	2,2'-メチレンジオキシ-1,1'-ビナフタレンを増感剤とするアルケンの光増感アミノ化反応	分子1
大山 広晃	宮崎大学大学院	活性炭内包マイクロカプセルの調製とその特性付与	材料1
小川 託	宮崎大学大学院	ポリ乳酸/シリカナノコンポジットの作製と力学特性	材料1
甲斐 康平	宮崎ガス	α-キチン結晶構造モデルに関する研究	生物1
甲斐 慎二	宮崎大学大学院	チオ尿素基を有する新規抽出剤の合成と銅イオンの抽出平衡	基礎
亀田 雄平	宮崎大学大学院	金属イオン交換モンモリロナイトを固体酸触媒とする無溶媒Friedel-Craftsアルキル化反応	分子2
川島 秀也	富士通BSC	スクレンの酸化劣化速度	材料1
河野 秀典	宮崎大学大学院	Bacillus属菌からのラッカーゼ活性及び同酵素をコードする遺伝子の検出	生物2
木下 真	SONYセミコンダクタ	局在化カチオンラジカルの光化学的発生と反応性	分子1
窪田 弓彦	宮崎大学大学院	フラクトオリゴ糖関連分子の配座解析	生物1
栗山 欣也	九州ガス	アミノ軸配位子を持つアンチモンポルフィリン錯体の蛍光挙動に対する金属イオンの効果	分子1
興 梶 治美	米良電機産業	チタニア-ハイドロタルサイト系ナノポーラス材料の合成	材料2
坂元 大地	宮崎大学大学院	1-アリール-2,2'-ジメチルシクロプロパンのレドックス光増感アミノ化反応	分子1

氏名	就職・進学先	論文・題目	研究室
坂元 裕介	大和合成	アルキルアミンを用いたアルカジエンのレドックス光増感アミノ化反応	分子1
坂本 陵治	宮崎大学大学院	生分解性ポリマーを骨格とした抗菌剤内包マイクロカプセルの調製	材料1
貞広 実里	宮崎大学大学院	ペロブスカイト型オキシサルフェートの合成と触媒作用	材料2
佐藤 智香		糖転移活性を有する酵素のアルギン酸ゲル凍結法による固定化	生物1
佐藤 輝宗	宮崎大学大学院	酢酸によるエタノールのエステル化反応速度	材料1
佐藤 文則	佐野マルカ(株)	スギ樹皮・葉の炭化反応および炭化生成物の分析	分子2
佐野 陽		固定化グリコシダーゼの調製とトランスグリコシレーション反応	分子2
椎葉 慎介	宮崎大学大学院	水溶性アミン化合物とAOTの静電相互作用を利用したタンパク質の逆ミセル抽出	材料1
清水 正勤	宮崎大学大学院	常温NOx還元用電気化学メンブリアクターの開発	材料2
下原 尚子	化血研	Penicillium属菌の生産するキシラナーゼの酵素特性	生物1
鈴木 朝日	宮崎大学大学院	分子インプリント法によるメソポーラスシリカの合成とその吸着性能	基礎
鈴木 晴子		Eu ³⁺ -をドープしたイットリウム-アルミニウム複合酸化物の発光特性	材料2
関谷 雄三	宮崎大学大学院	多重重層状タンタル酸塩の合成と光触媒特性	材料2
高橋 篤史	宮崎大学大学院	半連続型マイクロカプセル調製装置の開発	材料1
田阪 淳	宮崎大学大学院	トリフルオロ酢酸無水物を用いる混合酸無水物法によるFriedel-Craftsアシル化反応	分子2
那須 雅子	宮崎大学大学院	Bacillus subtilis由来耐熱性ラッカーゼによる各種フェノール類の分解	生物2
野村 明美	宮銀スタッフサービス	酸硫酸ランタンの合成と酸化還元特性	材料2
波佐間 宗朗	宮崎大学大学院	天然多糖類キトサンを利用した薬物含有ナノスフィアの開発	基礎
百武 幸司	宮崎大学大学院	界面活性剤を鋳型とするグルコサミン/ホルムアルデヒドナノポリマーの合成と評価	材料2
藤野 貴政	宮崎大学大学院	Bacillus sp. FT-5株の生成する凝集性ポリマーの特性	生物2
淵田 絵里香	三和浄水株式会社	焼酎もろみに含まれる微量成分の気液平衡挙動	材料1
前畑 雄一		カチオン性およびアニオン性キトサン誘導体の合成とその抗菌特性	基礎
増田 絵里子		生活環境場におけるレジオネラ属菌の調査および光殺菌実証実験	分子1
又川 俊		セルロース結晶構造の分子モデリング研究	生物1
松浦 達徳		カルボンとビニルエーテルとのDiels-Alder反応およびその生成物のノリゲナンへの変換	分子2
松下 千香	学生援護会	ルテニウムおよびパラジウムを担持した活性炭を触媒とする糖の脱水素反応	分子2
松田 大幹	児湯食鳥	ハイドロタルサイト触媒とするフェノールおよびナフトールの酸化カップリング反応	分子2
三浦 隆広	大日本印刷	Aspergillus属菌の生産するβ-キシロリナーゼの精製と性質	生物1
宮窪 建児	宮崎大学大学院	スギ内皮ヘキサニン抽出物およびスギ材蒸気水溶液の成分分析	分子2
向井 芳恵	株式会社 エハルス	脂溶性ペプチド誘導体による四級アンモニウムイオンの抽出	基礎
村上 杏奈	宮崎情報処理センター	リンボルフィリン会合体をキャリアーとするアニオン輸送系の構築	分子1
村林 里香	宮銀スタッフサービス	大豆発酵処理物の糖分析	生物1
森 千枝子		リノール酸の酸化劣化および抗酸化に関する速度論的研究	材料1
森 永崇史	富田薬品	微生物のヒ素除去に関する研究	生物1
吉海 竜太	アクティス	複合鋳型法による金ナノチューブの合成	材料2
吉野 史章	宮崎大学大学院	耐低温性水素発酵菌Clostridium sp.E-731による有機性廃棄物からの水素生産	生物2
脇山 元気	宮崎大学大学院	大豆発酵処理物中の糖の抽出及び分析	生物1
川越 美紀	日能研九州	スギの外皮および心材の樹脂成分の分離	分子2
川添 貴文	宮崎大学大学院	生分解性ポリマーを骨格とした除草剤内包カプセルの調製	材料1
中村 一道	株式会社イズミ	3-フェノール-2-フェニルピラノールおよび4-アザ-1,4-ジシアノ-7,8-テトラメチル[3,3,1]ナフ-3-エンのX線構造解析	分子1
前原 夕起	九州北清	温度応答性マイクロカプセルの調製とその徐放性	材料1

年 報 所 感

41年目の雑記

西 貞夫 (昭和17年卒)

OBの諸兄諸子如何お過ごしでしょうか。又在学生の皆様、元気で勉学に研究に励んでいることと思います。私OBとなつて41年が過ぎてしまいました。

甚では阪神優勝に沸き、便乗して商魂逞しくバーゲンセール等が行われています。私も少しはあやかつたか？と思つたりしています（この文章が記事になる頃にはプロ野球日本一は阪神かはたまたダイエーかの熱氣もさめているでしょう）。さて2年前ですか小泉内閣誕生のときは改革の掛け声も勇

ましく、少し位の痛みは我慢しようとも私大いに期待したものでした。しかし掛け声とはウラハラに中味はさっぱり、看板は代わってもかえって税金の無駄使いが増えたなんて新聞記事を目にしました。そして又小泉内閣の誕生です、この不景気皆様はどのように感じられますか。

語代わって先日8月31日に関西支部の幹事会がありました。竹井先生も80才を超えられ、皆に会いたいということで総会の打ち合わせを行ったのです。その席で故草野先生の話が出ました。草野研究室は留年が多かったという話になりました。竹井先生とは正反対だったなどと。実は私も草野研でした。草野先生の家で3日徹夜で卒論を書いたことは忘れられません。留年こそしなかったものの卒業は3月31日でした。従って卒業式は知りません。又私ものん気なもので卒業して故郷(大分県杵築市)に帰ってもぶらぶらしていました。実は既に就職先は決まっていたのです。父親に言われて会社に連絡を取り入社しましたが、この時も入社式は4月10日で既に終わっており私の入社は5月6日でした。従って入社式もありませんでした。あれから41年が過ぎました。

人生80年OB歴41年、気持ちも身体もまだまだ若いつもりでいる私です。在職中は卓球やテニスを毎日行っておりましたが、今この元気な状態を続けるために実行していることがあります。一つはゆるす限り毎日1時間程早足で歩いています。家の近くを武庫川が流れており、宝塚新大橋から武庫川新橋の川淵をぐるっと一周するのです。朝5時過ぎに家を出て1時間位で帰宅します。約5km位でしょうか、10種位の鳥を見ますが見た順番を覚えてるのも結構頭を使います。道すがらアヒルに餌をやるのも楽しみの一つです。もう一つはまだまだ現役でいたい、老けたくないという思いから、不景気な世の中、何とか資格を生かした仕事に就くことが出来、若い人とのつき合いで色々勉強ができることです。

何年前でしたでしょうか、宮崎で総会が開かれ私もなつかしく参加させてもらいました。私共の学んだ校舎は既になかったと思います。現在の木花台の校舎も未完成でした。1人当時の下宿の辺りを歩き平和台にも行きましたが塔以外その当時の面影はなかった思いがあります。しかしやはりなつかしく思われ機会があればもう一度訪れたいと思っ今日此頃です。

最後にOBの皆様方、現役の皆様方、宮崎大学のますますのご発展をお祈りして筆を起きます。



▲先生方と37年卒同期生

これまでとこれから

小柳 直之(平成2年卒)

職場を語る

九州市光工業(株)

乙津 晴彦(52年卒)

こんにちは！化学会関係者の方々いかにお過ごしでしょうか？此度、河野先生からTELがあり私の職場について一筆お願いたい…との事でした。そこで今年50才になった節目もあり、又小生の学生時代から今にいたるまでの小さな経験も少し述べさせて頂き、学生時代に叱咤させられたりご指導を受けた事が今にプラスになっている事が後輩の学生の方々に分かって

化学会会員の皆様、お元気で活躍のことと思います。先日、河野教授より「小柳君、会報の年次別所感を書いてもらえないだろうか？」とお電話があり「何で自分が…」という疑問が湧くのと同時に河野先生が電話口で「君の、これまでの道のりのことを…」ということでした。確かに私は今に至るまでに少し(?)遠回りをしてきたような気がします。この場を借りて、卒業後の私の道のりを簡単に綴ってみたいと思います。

私が卒業する頃は、バブル期でもあり求人も多く、同級生はほとんどが企業へと就職していきました。そんな中、いざ企業への就職を考えると「自分に企業動機が果たして向いているだろうか？」と自分勝手な疑問がわき、平成4年長崎大学歯学部にて再入学しました。何故歯学部？とお思いでしょうか、親戚に歯科医が多く、幼少の頃から身近に感じており、自分自身興味を持っていたというのが一番の理由でしょうか。なんとか留年もせず、進路を決定しなければならなかった6年の夏、「このまま、一般歯科をやっていくだけで、いいのだからか？」と再び自分勝手な疑問がわいてきました。当時、有病者、障害者歯科を専門にしてみたいと思っていた私は、「歯科麻酔科」への入局を決めました。(障害者の方は、一般歯科医院では不随意運動、多行動などがあり、通常の状態では歯科治療が行えないため、大学病院等の専門施設において点滴をとり、鎮静薬を投与しながら、また、全身疾患を有する患者さんでは、バイタルサインをモニターし全身状態を把握しながら治療を行います。)障害者歯科を行うなら、まず麻酔管理が行えるようになってからと諸先輩方からのアドバイスもあったからです。歯科麻酔と聞くと、「治療前の麻酔の注射をする人？」と思われがちですが、実際の主な仕事は、手術室での口腔外科領域の手術(時には20時間を越えるような手術もあります)、術後の患者さんの全身管理、麻酔科外来では神経麻痺、原因が特定できない痛みに対するペインクリニックを中心に行っています。

現在、福岡歯科大学診断・全身管理理学講座 麻酔管理学分野に所属、平成12年には歯科麻酔認定医を取得し、日々、全身麻酔、障害者等の歯科治療時の鎮静、また、週1回の学外研修日には、福岡市内の総合病院にて脳外科、一般外科、整形外科、形成外科、婦人科、泌尿器科など心臓血管外科以外の麻酔を医科麻酔科の先生と行っている毎日です。宮崎大学を卒業して13年。歯科医師になって7年、二転三転した道のり(両親には大変感謝しています)でしたが、現在、「麻酔」という学問に真っ向から、真剣に取り組んでいます。遠回りをしましたが、やっと自分で納得の見えるような気がします。最後になりましたが、宮崎大学および化学会会員の皆様御健勝、御健闘を祈念致しまして終りたいと思います。



が良かったと思います。就職後、自動車部品メーカーの市光工業（資本金89億円で、ドアシラー、ヘッドランプ、ワイパー、シートアジャスター類…同業他社では小糸製作所、スタンレー電気、村上開明堂等）へ入社して5年間現場でプレス、ロール、溶接、メッキ、塗装関係の業務に携わっていました。色々和悩みもあり、いつ本部へ行くのが悔しかった時もありましたが休み時間、夜も別に独学を行い、英語は勿論、コンピューター、技術、経営分析、企画等を通信教育及び自学自習をしました。その間、剣道、バスケット、野球等のクラブにも入りそれなりに謳歌していましたが、剣道で当時の専務と知り合いいろいろな方との出会いがありその後大きな変化が波の様におよせてきました。コンピューター立上、新塗装装置導入、新生産管理導入、原価、経理の勉強、そして九州大分県の子会社設立での先発隊その後米国王場の建て直し（5年間）、帰任後に大分に2万5千坪の土地に新工場設立の為に再度九州子会社（今の会社）にきました。（現在ダイハツ関係対応の為再検討中！）。その後、御存知の様に自動車業界の大合理化要求がある中で、原価低減、購買新施策、海外対応、ISO-QS9000対応、九州地区の中国に勝つ為の改革等に今でも従事しており市光工業本體と九州市光工業での戦略に入っている

企画、合理化に従事しています。

市光工業は純正メーカーの為あまり一般には知られていませんが“PIAAブランド”は市光工業の品物です。今は技術、品質、管理各部門を管理していますが、学生時代からの厳しい考え方（プロはプロに徹したポリシーと分析・解析そして実行フォロー）…草野先生や当時の教官の言葉が今でも脳裏から離れません。製造のI-P-O（入造出）の各プロセス毎の検証と合理化は正に工学系なのです！今後も市光は仏のバレオ（シビエ、マーシャル等のH/L）と手を取り合いながら世界に負けない会社にすべく頑張っていきます。学生の方々は是非初心を忘れず、常にプラス思考と進取向上（不撓不屈、創造新進、相互信頼）を発揮してください。

最後ですが今後の化学会及び関係者各位様のご発展とご健勝を祈念し、“宮崎大学化学会に幸あれ!!”



▲工学部大学祭の女装大会にて

みやざきはいま

みやざき近郊の観光スポット

○手づくりの里

工芸の里、綾町をたずぬ!

原田 繁利 (38年卒)

不況下のもと、明るいニュースが乏しいなか、平成15年10月1日、全国的な大学の再編成の流れで、母校宮崎大と宮崎医科大学が合併し、新生宮崎大学の誕生をまずOBの皆様に報告します。

両校は清武町の南部丘陵地帯にあり、広大なキャンパスが林立し、素晴らしい景観である。幕末の儒学者、安井息軒を生んだ地に、宮崎大学、宮崎女子短期大学、国際大学、隣接地に宮崎看護大学が集中し、本県の学園都市を形成している。

高齢化の進むなか、ここだけは若者の活気に満ちている。11/6～8日には、全国マルチメディア祭が宮崎市をメイン会場にして、県内5か所で地域情報フォーラムが開かれ、清武町ではその一翼を担ない「ITによる医療と福祉」をテーマに地域情報フォーラムが開催される。いまや清武町は、宮崎大学を中核とする学術発信基地として、大きく羽ばたこうとしている。

さて、みやざきはいまの紀行文も、17回を重ねると、これは！というスポットが少なくなりました。

県南の大東のさつまいも、県北の秘境、そして県西の霊峰高千穂周辺の探索から、ふと県中央部に目を向けてみると、話題性のあるスポットがいっぱいある。

今回は、照葉樹のふるさと「綾」を探索することにした。いざ本郷南方の我が家を出発、南丘陵地帯に林立する宮崎大を横目にしながら、清武町の中心街を通り抜け、宮崎県で最も古い黒北水力発電所近くをとおろ、高岡町に入る。大淀川沿いに西上、高台には春桜でにぎわう天ヶ城の雄姿が飛び込んでくる。なかなかの景観である。

高岡町の中央を横切り、ドライブすること20分、目的地綾に入る。ここ、綾町は日本一の照葉樹林の地でもあり、世界一



照葉樹大吊橋

の歩道つり橋の地でもある。

まずは、中心地を通過し、2k先のつり橋に向かう。

大自然の中に忽然と現れた大つり橋、さつそく車を降り、吊橋を散策…高さ142m空間は、ゆらゆらで足元がおぼつかない。眼下、側面の景観は素晴らしい。

この自然の豊かなめぐみに、惹かれるかのように都会から現代の名工が作品つくりの拠点にと集まっている。

河野教授の友人でもある川野幸三氏は、小木工デ総理大臣賞、県産材での物づくりで通商産業大臣賞等を受賞し、この地に「グローバルヴィレッジ」を設置し、全国規模で活躍中である。その近くには、都会の感覚と照葉樹林の雰囲気を生かしたパン工房綾、綾川河畔には、綾川の工房が、そして、綾最大のイベント会場酒泉の杜には、薩摩・江戸切子を120年ぶりに復元した現代の名工、黒木国



グラスアート製作風景

昭氏のグラスアート宮崎綾工房がある。

ここでも、照葉樹林をモチーフとした綾切子がみられる。ただし、小生にとって、2,000,000円と〇がいくつもあ作品はなじめない。

館に入るとなじみの品のオンパレード。

ここ酒泉の杜は、雲海酒造の直営店名である。

本格焼酎、清酒、ワイン、地ビールの各銘柄、無料の利き酒で、ほろ酔い気分になれる。

ここには、他所とは、ちょっと趣が違つ温泉がある。

化学家である小生は、その泉源が発酵熱かなと疑っているが、泉源はともかく、ここならではの地酒入り風呂には風情がある。

綾特産のあゆを肴に、いっぱいやり地酒入り風呂をあびるのも、乙なものである。

ぜひ、県外の焼酎党の諸氏に楽しんでもらいたいものである。

あとがき

- ここに会報No17をお届けします。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。
- 医科大との統合により新しい宮崎大学が誕生しました。来年4月には国立大学法人に変わります。同窓生皆様のより一層のご支援をお願い致します。
- 今年も残り少なくなりました。皆様よいお年をお迎えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。

平成15年12月 編集委員一同